

平成 30 年度

(平成 30 年 4 月 1 日より平成 31 年 3 月 31 日まで)

事業報告

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

目次

第1章 概況	1
第2章 事業の状況	
1. 研究助成金の贈呈	1
2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	1
3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2. 国際シンポジウム開催の助成	2
4. 国際講演会の開催	3
5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	3
6. 機関誌「CANCER」の発刊	4
第3章 管理事項	
1. 会議等に関する事項	
(1) 平成30年度第1回理事会 (通常)	5
(2) 平成30年度第1回評議員会 (定時)	5
(3) 平成30年度第2回理事会 (臨時)	5
(4) 平成30年度第3回理事会 (臨時)	6
(5) 平成30年度第2回評議員会 (臨時)	6
(6) 平成30年度第4回理事会 (臨時)	6
(7) 平成30年度第5回理事会 (臨時)	7
(8) 平成30年度第3回評議員会 (臨時)	7
(9) 平成30年度第1回学術委員会	7
(10) 平成30年度第6回理事会 (臨時)	8
(11) 平成30年度第7回理事会 (通常)	8
(12) 平成30年度第4回評議員会 (臨時)	9
(13) 平成30年度第8回理事会 (臨時)	9
(14) 平成30年度第5回評議員会 (臨時)	10
2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	10
3. 内閣府からの連絡事項等	10
第4章 附属明細書	
表1 平成30年度研究助成金受領者名簿	11
表2 平成30年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	13

第1章 概況

当事業年度、当財団は平成30年4月20日に設立50周年を迎え、次の50年に向けて新たな一歩を踏み出した。がん撲滅のための公益目的事業の維持、増進を図るべく、従来から実施してきた事業を着実に遂行するとともに、財団運営の管理、運営面の改善にも取り組んだ。主要事業のうち、国際講演会の開催については講演者との来日日程の調整の結果、来年度の実施に延期となったものの、その他の公益目的事業については計画どおりに事業を終了した。また、設立50周年記念誌発刊の準備も着実に進み、2019年の発刊が決定した。

これらの事業に関する当事業年度の収支は、主要な収入である株式配当及び寄附金が前事業年度比で上回る一方、債券利息収入は前事業年度比で若干下回った。当事業年度の経常収益総額は、前事業年度235,830千円に対し、234,072千円の実績となり、1,757千円の減収となった。

一方経常費用については、当事業年度の研究助成金の採択件数を前事業年度の30件から34件に増加させて事業の拡大を図る一方で、国際シンポジウムの開催等事業費の一部及び管理費の経費削減や国際講演会の実施延期等により、経常費用総額は、前事業年度212,400千円に対し、211,673千円の実績となり、前事業年度比727千円の減少となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期経常増減額は、22,399千円の黒字（前事業年度23,430千円の黒字）となった。

第2章 事業の状況

1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は212件であり、この中から34件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。

選考は平成30年12月7日（金）開催の学術委員会において行なわれ、平成30年12月21日（金）、理事会の承認を得た。

贈呈式は、平成31年2月22日（金）、総裁常陸宮殿下ご臨席の下、パレスホテル東京（東京都千代田区）において挙行了した。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（定款第4条第1項第2号）（公益目的事業2）

当事業年度の推薦件数は12件11名であり、この中から2件2名が選考された。受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。

学術委員会における受賞者の選考、理事会の承認及び贈呈式は、上記1.の研究助成金と併せて行われた。

3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催

(定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業3)

第49回高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催した。

(1) シンポジウム

主 題： がんゲノムの解読と編集

会 期： 平成30年11月6日(火)～8日(木)

会 場： パレスホテル東京(東京都千代田区)

組織委員長： 柴田 龍弘 博士 東京大学医科学研究所 教授

組織委員： Dr. Matthew Meyerson 米国・ハーバード大学ブロード研究所
ダナファーバーがん研究所
教授

Dr. Peter Campbell 英国・ウェルカム・サンガー研究所
部門長

油谷 浩幸 博士 東京大学先端科学技術研究センター 教授

招待演者： 海外19名 (米国8名 英国5名 スペイン2名 ドイツ1名
オランダ1名 オーストラリア1名 シンガポール1
名)

国内11名

討 論 者： 200名

(2) 中原記念講演賞

本シンポジウムの特別セッションにおいて、第15回中原記念講演が行なわれた。講演終了後、講演者に対し、記念の盾と副賞50万円(目録)が贈呈された。

講 演 者： Dr. Michael R. Stratton

英国・ウェルカム・サンガー研究所所長

演 題： がんゲノムにおける変異シグネチャー解析による発がん要因の解明

(3) 記録集の発刊

本シンポジウムの記録集を次のとおり発行した。

書 名： “Extended Abstracts for the 49th International Symposium of
the Princess Takamatsu Cancer Research Fund, 2018”

発 行 月： 平成31年3月

発 行 部 数： 450部

3-2. 国際シンポジウム開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業3)

下記の3学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

- (1) 第16回日本臨床腫瘍学会 学術集会における International Symposium
 会 期：平成30年7月19日（木）～21日（土）
 会 場：神戸コンベンションセンター
 助成額：2百万円
- (2) 第77回日本癌学会 学術総会における JCA-AACR Joint Symposia
 会 期：平成30年9月27日（木）～29日（土）
 会 場：大阪国際会議場
 助成額：5百万円
- (3) 第56回日本癌治療学会 学術集会における International Session
 会 期：平成30年10月18日（木）～20日（土）
 会 場：パシフィコ横浜
 助成額：2百万円

4. 国際講演会の開催（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業4）

第38回国際講演会の開催は、講演者との来日日程調整の結果、来年度に延期して実施することとなった。講演会の実施内容については次の通り予定している。

講演者：Dr. Lewis C. Cantley
 米国・コーネル大学医学部
 サンドラ・エドワード・メイヤーがんセンター所長

演 題：PI3キナーゼとヒト疾患

受入責任者：慶應義塾大学 佐谷 秀行 博士

開催地及び：東京／慶應義塾大学 佐谷 秀行 博士

開催責任者 広島／広島大学 安井 弥 博士

京都／京都府立医科大学 酒井 敏行 博士

開催予定日：2019年5月14日 第1回講演会（慶應義塾大学）
 2019年5月17日 第2回講演会（広島大学）
 2019年5月20日 第3回講演会（京都府立医科大学）

5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業5）

米国癌学会（AACR）の2018年度総会において、第12回AACR高松宮妃記念講演が行われた。講演者の選定は、日本側から牛島俊和博士（国立がん研究センター研究所エピゲノム解析分野分野長）及び佐谷秀行博士（慶應義塾大学先端医科学研究所教授、当財団学術委員）が参加する選考委員会において行われ、同総会には、当財団を代表して関谷剛男理事長が参加した。

講演者：Dr. Lisa M. Coussens
 米国・ナイトがん研究所教授

演 題：免疫反応の調節ーがん発生のマウスモデルから学ぶこと

講演日：平成30年4月16日（月）

会場：米国・シカゴ マコーミックプレイスコンベンションセンター

講演に先立ち、関谷剛男理事長から故高松宮妃殿下の世界のがん研究に対する長年にわたるご支援並びに当財団の沿革・事業内容等について説明があり、Dr. Coussens に対し記念の盾及び副賞1万ドルを贈呈した。

6. 機関誌「CANCER」の発刊（定款第4条第1項第5号）

平成30年度（第49巻）機関誌CANCERを次のとおり発刊した。

発行日：平成30年7月10日（火）

発行部数：700部

第3章 管理事項

1. 会議等に関する事項

(1) 平成30年度第1回理事会（通常）

開催日：平成30年6月1日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事10名（総数10名）・監事2名（総数2名）

議案：① 平成29年度事業報告及び決算について
② 平成30年度第1回評議員会（定時）の開催について
③ 次期役員候補者について
④ 次期評議員候補者について
⑤ 事務局長の選任について

審議結果：提案された5件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長及び常務理事より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(2) 平成30年度第1回評議員会（定時）

開催日：平成30年6月19日（火）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員11名（総数13名）

理事長、常務理事

議案：① 任期満了に伴う理事及び監事の選任について
② 任期満了に伴う評議員の選任について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長及び常務理事より、平成29年度事業報告及び決算につき報告が行われた。

(3) 平成30年度第2回理事会（臨時）

開催日：平成30年6月22日（金）

開催場所：公益財団法人高松宮妃癌研究基金 事務所

東京都港区高輪1-14-15-102

出席者：理事9名（総数10名）・監事1名（総数2名）

議 案：① 理事長及び常務理事の選定について

② 顧問の選任について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(4) 平成30年度第3回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：①廣澤眞信前常務理事に退職手当を支給する件

②山中恒夫新常務理事の報酬額を決定する件

③平成30年度第2回評議員会（臨時）の書面決議提案の件
（平成30年7月6日（金）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により第1号議案及び第2号議案に関しては各々利害関係者を除く理事各9名全員から同意の意思表示を、第3号議案に関しては理事10名全員から同意の意思表示を、また全ての議案に関して監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第3項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：平成30年7月12日（木）

(5) 平成30年度第2回評議員会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：①廣澤眞信前常務理事に退職手当を支給する件

②山中恒夫新常務理事の報酬額を決定する件

（平成30年7月12日（木）提案書発送）

提案結果：理事が、評議員会の目的である事項について提案し、同提案につき、書面により評議員14名全員から同意の意思表示を得たので、定款第27条の規定に基づき、評議員会決議があったものとみなされた。

評議員会の決議があったものとみなされた日：平成30年7月23日（月）

(6) 平成30年度第4回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：①平成30年度第3回評議員会（臨時）の開催について

（平成30年10月19日（金）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により理事10名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第3項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：平成30年10月30日（火）

(7) 平成 30 年度第 5 回理事会（臨時）

開催日：平成 30 年 11 月 30 日（金）

開催場所：ホテルグランドパレス（東京都千代田区飯田橋 1-1-1）

出席者：理事 9 名（総数 10 名）・監事 2 名（総数 2 名）・顧問 1 名（総数 3 名）

議案：①平成 30 年度事業計画の変更について

②平成 30 年度収支予算の変更について

③平成 31 年度の主要事業について

④平成 30 年度第 4 回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された 4 件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長及び常務理事より、定款第 33 条第 4 項に基づき、平成 30 年度事業計画等の業務執行状況につき報告が行われた。

(8) 平成 30 年度第 3 回評議員会（臨時）

開催日：平成 30 年 11 月 30 日（金）

開催場所：ホテルグランドパレス（東京都千代田区飯田橋 1-1-1）

出席者：評議員 10 名（総数 14 名）

理事長、常務理事

議案：①平成 30 年度事業計画の変更について

②平成 30 年度収支予算の変更について

審議結果：提案された 2 件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(9) 平成 30 年度第 1 回学術委員会

開催日：平成 30 年 12 月 7 日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内 1-1-1）

出席者：学術委員 9 名（総数 10 名）

理事長、常務理事

議案：①平成 30 年度研究助成金受領候補者の審査、選考について

②平成 30 年度学術賞候補者の審査、選考について

③2019 年度国際講演会の実施について

④2019 年度（第 16 回）中原記念講演賞受賞者の選考について

⑤2020 年度（第 51 回）高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの主題、組織委員長の審査、選考について

- 審議結果：① 212名の申請者の内、第5章・附属明細書・表1に記載の34名が選考された。
- ② 12件11名の候補者の内、第5章・附属明細書・表2に記載の2名が選考された。
- ③ 2018年度国際シンポジウムの演者であるDr. Lewis C. Cantley（米国：サンドラ・エドワード・メイヤーがんセンター所長）の国際講演会を2019年度に延期し、2019年度国際シンポジウムの演者であるDr. Elaine Fuchs（米国：ロックフェラー大学教授）とともに2019年度に2回の国際講演会を実施することが報告された。
- ④第50回国際シンポジウムの間野博行組織委員長から推薦のあった宮園浩平博士（東京大学大学院教授）が受賞者に選考された。
- ⑤学術委員の提案、審議により、主題を「がんの発生・進展における環境インパクトの新知見：原因究明から切り拓く最適予防」とし、組織委員長候補として、津田洋幸博士（名古屋市立大学特任教授）が選考された。

(10) 平成30年度第6回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：平成30年度学術委員会決定事項の承認について

- ① 平成30年度研究助成金受領者の決定について
 - ② 平成30年度学術賞受賞者の決定について
 - ③ 2019年度国際講演会の実施について
 - ④ 2019年度（第16回）中原記念講演賞受賞者の決定について
 - ⑤ 2020年度（第51回）高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの主題および組織委員長の決定について
- （平成30年12月14日（金）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事10名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第3項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：平成30年12月21日（金）

(11) 平成30年度第7回理事会（通常）

開催日：平成31年3月15日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事10名（総数10名）・監事2名（総数2名）・顧問2名（総数3名）

- 議 案：① 2019 年度事業計画について
② 2019 年度収支予算について
③ 2019 年度資金調達及び設備投資の見込みについて
④ 定款の変更について
⑤ 諸規程の変更について

審議結果：提案された 5 件の議案につき、審議の結果、第 4 号議案および第 5 号議案の一部「事務局の組織及び事務処理に関する規程」については改めて次回理事会に諮ることとし、その他の議案については異議なく承認可決された。

(12) 平成 30 年度第 4 回評議員会（臨時）

開 催 日：平成 31 年 3 月 15 日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内 1-1-1）

出席者：評議員 10 名（総数 14 名）

理事長、常務理事

- 議 案：① 2019 年度事業計画について
② 2019 年度収支予算について
③ 2019 年度資金調達及び設備投資の見込みについて
④ 定款の変更について
⑤ 諸規程の変更について

審議結果：提案された 5 件の議案につき、審議の結果、第 4 号議案については改めて次回理事会での決議後、評議員会に諮られることとなった。その他の議案については異議なく承認可決された。

(13) 平成 30 年度第 8 回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 定款の変更について

② 事務局の組織及び事務処理に関する規程の変更について

③ 平成 30 年度第 5 回評議員会（臨時）の書面決議提案について

（平成 31 年 3 月 20 日（水）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により理事 10 名全員から同意の意思表示を、また監事 2 名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第 46 条第 3 項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：平成 31 年 3 月 27 日（水）

(14) 平成 30 年度第 5 回評議員会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：①定款の変更について

（平成 31 年 3 月 27 日（水）提案書発送）

提案結果：理事が、評議員会の目的である事項について提案し、同提案につき、書面により評議員 14 名全員から同意の意思表示を得たので、定款第 27 条の規定に基づき、評議員会決議があったものとみなされた。

評議員会の決議があったものとみなされた日：平成 31 年 4 月 5 日（金）

2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| (1) 平成 29 年度事業報告等の提出 | 平成 30 年 6 月 27 日（水） |
| (2) 変更届出書（評議員、理事及び監事の改選） | 平成 30 年 7 月 20 日（金） |
| (3) 2019 年度事業計画書等の提出 | 平成 31 年 3 月 29 日（金） |

3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。

この情報連絡に関し、平成 30 年度に対応した主な事項は次の通りである。

平成 30 年 7 月 19 日（木） テーマ別セミナーへの参加

テーマ「平成 29 年度公益法人の会計に関する諸課題の検討結果」
「行政庁による監督と法人運営の留意事項」

また、当事業年度において、次のとおり公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 27 条第 1 項及び第 59 条第 1 項の規定に基づき、内閣府公益認定等委員会の立入検査が実施された。

検査実施日時：平成 30 年 9 月 13 日（木）午前 10 時から午後 5 時まで

検査実施場所：当財団事務所

立入検査職員：2 名

第4章 附属明細書

表1 平成30年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所属・職	研究題目
石本 崇胤	熊本大学医学部附属病院 消化器癌先端治療開発学 特任准教授	スキルス胃癌腹膜播種を促進する細胞間クロス トーク機構の解明
大口 裕人	熊本大学 生命資源研究・支援センター 疾患エピゲノム制御分野 准教授	多発性骨髄腫細胞増殖を制御するヒストン修飾 機構の解明
大谷 直子	大阪市立大学大学院 医学研究科 病態生理学 教授	脂肪肝を素地とする肝がんの発症機構の解明と 予防法の開発
籠谷 勇紀	東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科／無菌治療 部講師	芳香族炭化水素受容体シグナルに着目した幹 細胞様メモリーT細胞の維持機構の解明とが んに対する養子免疫療法への応用
加藤 洋人	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 ゲノム病理学分野 助教	次世代免疫ゲノム解析による腫瘍免疫の本態 解明
加藤 裕教	京都大学大学院 生命科学研究所 准教授	神経膠芽腫浮遊培養モデルにおける凝集体形 成の分子メカニズムの解明
金田 篤志	千葉大学大学院 医学研究院 分子腫瘍学 教授	エピゲノム特性の解析による去勢抵抗性前立 腺癌の本態解明と新規治療戦略の確立
川内 敬子	甲南大学 フロンティアサイエンス 学部 准教授	RASmRNAを分子標的とした新規光線力学療法 の開発
木村 航	理化学研究所 生命機能科学研究センター 心臓再生研究チーム チームリーダー	心筋ターンオーバーから見た癌治療における 晩期心不全発症機構の解明
口丸 高弘	自治医科大学 分子病態治療研究センター 分子病態研究部 講師	骨髄間質細胞による骨転移発症制御機構の解 明
國本 博義	横浜市立大学 医学部血液・免疫・感染症 内科 助教	炎症性サイトカインを介したクローン造血の 拡大機序に基づく新規白血病予防法の創成
合山 進	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 細胞療法分野 准教授	腫瘍ニッチおよび腫瘍免疫回避機構を標的と した造血器腫瘍治療法の開発
越川 直彦	神奈川県立がんセンター 臨床研究所 部長	がん特異的に発現する細胞外マトリックスを 指標とした肝発がん予測に関する研究

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
小 林 進	国立がん研究センター 先端医療開発センター ゲノムトランスレショナリ サーチ分野 分野長	肺がんにおけるヒストンアセチル化酵素の役割
昆 俊 亮	東京理科大学 生命医科学研究所 講師	化合物スクリーニングによるがん細胞の基底 膜浸潤制御因子の探索
近 藤 科 江	東京工業大学 生命理工学院 教授	超高感度HIF活性可視化Tgマウスを用いた腫 瘍内間質細胞の統合的理解に基づいた新規治 療法の開発
今 野 雅 允	大阪大学大学院 医学系研究科 先進癌薬物 療法開発学 講師	RNA修飾機構を標的とした難治性膵臓がん に対する新規抗がん剤とそのコンパニオン診 断薬の開発
齋 藤 義 正	慶應義塾大学 薬学部 薬物治療学講座 准教授	胆道・膵臓がんオルガノイドを用いたエピゲ ノム異常の解明とエピゲノム編集による新規 治療法の開発
園 下 将 大	北海道大学 遺伝子病制御研究所 教授	遺伝子変異の多様性が膵臓がんの発生に及ぼす 影響の解析と新規膵臓がん治療法の開発
谷 口 英 樹	東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター 再生医学分野 教授	ゲノム編集技術を活用したヒト膵癌治療抵抗 性機構の解析
田 沼 延 公	宮城県立がんセンター研究 所 がん薬物療法研究部 主任研究員	がんグルコース代謝の包括的理解にもとづ く、新規治療戦略・戦術の導出
田 部 陽 子	順天堂大学大学院 医学研究科 臨床検査医学講座 特任教授	白血病細胞の酸化的リン酸化代謝制御と治療 応用
千 葉 滋	筑波大学 医学医療系 血液内科 教授	脂肪酸組成および質による造血幹細胞の新規制 御メカニズムの解明と白血病治療への応用
内 藤 尚 道	大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 助教	腫瘍血管内皮細胞の多様性と内皮幹細胞性の 証明による新たな血管障害療法の提案
中 川 英 刀	理化学研究所 生命医科学研究センター がんゲノム研究チーム チームリーダー	大腸がんマイクロサテライト不安定性の全ゲ ノムレベルでの特徴と新規マーカー探索
中 川 雅 夫	北海道大学大学院 医学研究院 血液内科学教室 助教	全ゲノムCRISPRスクリーニング法を用いたT細胞 性リンパ腫に対する新規免疫療法の探索
中 山 恒	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 独立准教授	代謝異常乳がんの悪性化を促進する代謝酵素 の新しい機能の解明とそれを標的とした乳がん 治療法の開発研究
深 見 希 代 子	東京薬科大学 生命科学部 ゲノム病態医科学研究室 教授	がん細胞の悪性化を制御するイノシトールリ ン脂質代謝情報伝達系

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
保 仙 直 毅	大阪大学大学院 医学系研究科 癌幹細胞制御学寄附講座 准教授	固形がんに対する新規CAR T細胞療法の開発
増 田 万 里	国立がん研究センター研究所 細胞情報学分野・連携研究室 主任研究員	がん幹細胞の遺伝子転写を標的とした新規大腸がん治療薬の開発
水 島 恒 和	大阪大学大学院 医学系研究科 炎症性腸疾患治療学寄附講座 寄附講座教授	大腸の炎症関連癌における腸管免疫の関与の検討と治療成績向上に向けた診断・治療法開発
宮 崎 正 輝	京都大学 ウィルス・再生医科学研究所 准教授	悪性リンパ腫発生における3Dゲノム構造変換とがん抑制遺伝子Arfの発現抑制機構
山 田 泰 広	東京大学医科学研究所 システム疾患モデル研究センター 先進病態モデル研究分野 教授	リプログラミング技術による小児がんの病態解明
横 堀 武 彦	群馬大学 先端腫瘍免疫治療学講座 特任准教授	微小管ダイナミクス制御タンパクStathmin1を標的とした難治性小細胞肺癌に対する新規治療ツールの開発

(氏名五十音順 敬称略)

表 2 平成 30 年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1 件当たり 500 万円の賞金を贈呈した。

氏 名	所 属 ・ 職	研 究 業 績
牛 島 俊 和	国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野 分野長	エピジェネティックな発がんの素地：概念樹立から臨床応用まで
藤 堂 具 紀	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 先端がん治療分野 教授 東京大学医科学研究所附属病院 脳腫瘍外科 科長	遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いたがんのウイルス療法の臨床開発

(氏名五十音順 敬称略)